

台風19号の接近に伴う被害防止対策について

気象災害対策H26-5
平成26年10月9日
農林総合研究センター

I 被害防止対策 [詳しい台風情報、解説は最終ページ](#)

猛烈な台風第19号は、フィリピンの東を1時間におよそ10キロの速さで北西へ進んでいます。

石川県には13日（月）から14日（火）にかけて最接近する進路予報となっています。

今後の台風情報に十分注意し、万全の対策を講じて下さい。

<要旨>

- (1) 大雨に備えてほ場の排水路を事前に点検・連結し、排水対策を講じる。
- (2) 成熟期を迎えている大豆は台風前にできるだけ収穫する。
- (3) 収穫期に入っているりんご、くり、かき、いちじく等は、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する。
- (4) 園芸施設は内部に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備する。

<詳細>

II 農作物の被害防止対策

1 大豆

- ① 成熟期となっているほ場は台風前にできる限り収穫する。
- ② 事前に畦間と排水溝との接続を点検し、ほ場内に停滞水が残らないようにするとともに、台風通過後はほ場巡回を行ない、排水状況を確認する。
- ③ 着色粒や腐敗粒などの品質低下が見られる場合は、品質ごとに分別して調製を行なう。

2 大麦

- ① 播種時期となっているため、通過前に額縁排水溝を点検し、ほ場内に停滞水が残らないようにするとともに、台風通過後はほ場巡回を行ない、排水状況を確認する。
- ② 播種作業は、土壌が乾くなど、ほ場条件が良くなるまで待つて実施する。なお、播種適期は10月中～下旬である。

3 野菜・花き

【事前対策】

(1) 園芸施設（メロン、トマト、きゅうり、ねぎ、軟弱野菜、ストック等）

- ① 施設内に風が吹き込まないように、サイドのフィルムを張り、破損箇所は速やかに補修し、ビニールのバタつきを防ぐためにハウスバンドを締め直すなど点検・整備を早急を実施する。
- ② 魚網や防風ネットを妻面又はハウス全体に被覆する。
- ③ 暴風時に、施設を密閉し、換気扇を稼働させて、施設の内圧を下げて、フィルムがばたつかないようにする。
- ④ ハウス周囲の排水溝を整備し、施設内に浸水しないよう備える。

(2) 露地立体栽培（なす、まるいも、きく、はぼたん等）

- ① ほ場の排水路を事前に点検・連結し、事前に排水対策を取っておく。
- ② 筋かい、畦相互の直管（針金）による連結や隅、周囲杭と棚の固定・連結で棚全体を固定する。
- ③ きくや切り花はぼたんなどは鋼管支柱等を3～5m毎に打ち込み、ネットを補強する。また、強風が予測される場合は、畦の中央に数m置きに支柱を立て、支柱を中心にネットを絞り込む。

(3) 露地地這栽培（ねぎ、ブロッコリー、だいこん、キャベツ、にんじん等）

- ① ほ場の排水路を事前に点検・連結し、排水対策を講じる。
- ② 収穫可能なものは早急に収穫する。
- ③ ねぎは鉄パイプ支柱を1.8m間隔に立て、2本のハウスバンドで挟み込むように連結結束し、横ゆれを防止し、葉の損傷や倒伏を抑制する。
- ④ ブロッコリー、だいこん、キャベツ等の野菜は寒冷紗や防風ネットをベタがけし強風による横ゆれを防止して引き抜きや茎葉の損傷を回避する。
- ⑤ 砂丘地では飛砂防止のため、スプリンクラー散水を強風の前から台風が通過するまで行う。

【事後対策】

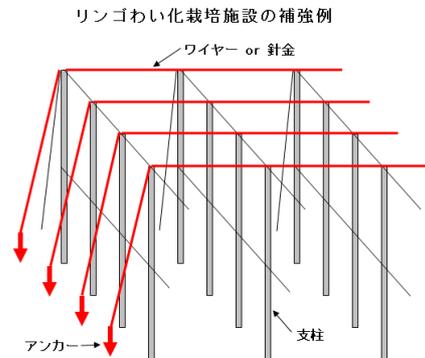
- ① 強風のためねぎが斜めに倒れた場合は、葉しょう部の曲がり防止するため、台風通過後1～2日以内に起こす。
- ② 風でもまれた茎葉は、病害が発生しやすいので殺菌剤による予防と草勢回復のため微量要素入り液肥の葉面散布を行う。
- ③ 強風のため切り花が斜めに倒れた場合は、茎の曲がり防止のため、台風通過後2～3時間以内にネットを起こし元に戻す。
- ④ 花木・枝物の枝折れに対しては、枝の裂け等損傷の無い部分まで切りもどす。さくら、もも等は切り口に癒合剤を塗布する。

4 果樹

【事前対策】

- ① 収穫期に入っているりんご、くり、かき、いちじく等は、熟度を確認し、収穫可能なものは早急に収穫、出荷する（ただし農薬使用基準を遵守すること）。

- ② 破損している果樹棚、防風垣等の施設は早急に修復する。
- ③ 防風施設は支柱を点検し、ネットの破れ等は補修し架線にしっかり固定する。
- ④ 大雨を伴う場合は、排水溝を設置するなど園内の排水対策を行う。
- ⑤ 高接ぎ更新などの接ぎ木部分は風に弱いため、支柱を添えて必ず補強する。
- ⑥ りんごのわい化栽培では、支柱の上部をワイヤー等でつなぎ固定する。
- ⑦ りんごの普通栽培やかきでは、枝の揺れによる落果を防止するため、枝の結束や支柱立てを行う。特に、結実の多い枝は抵抗が大きく揺れやすいので注意する。
- ⑧ 棚栽培では、風圧による棚の上下動を防止するため、支柱・アンカー等で棚面を固定する。
- ⑨ キウイフルーツ、いちじく等の新梢は折れやすいので、棚面や支柱等に固定する。特に、いちじくは葉擦れが原因でサビ果が発生するので新梢が揺れないようしっかりと固定する。
- ⑩ 収穫が終了したぶどう園では、速やかにビニールを除去する。
- ⑪ 強風による事後対策のための資材等を予め準備しておく。（薬剤、補修資材等）



【事後対策】

- ① 落果したり傷害を受けた果実は早急に集め、用途別に処理する。
- ② 倒伏樹は速やかに起こし、支柱で固定する。太根の切断が著しい場合は、その程度に応じて地上部を切りつめる。
- ③ 枝裂けは状態に応じて傷害部を削り取り、塗布剤で処理する。
- ④ 落葉被害を受けた場合は、被害程度に応じて摘果を行い、果実品質の維持と樹体の回復を図る。
- ⑤ ビニールハウス、果樹棚、支柱等の施設の被害は早急に補修する。
- ⑥ 被害を受けると樹体の貯蔵養分が不足し、翌年の生育に大きく影響する。貯蔵養分不足の影響を小さくするために、液肥の葉面散布や土壌施用を行い、養分吸収の促進を図る。
- ⑦ 強風で葉や新梢が傷ついた場合、使用基準に基づき保護と防除を兼ねて速やかに殺菌剤を散布する。

5 畜産

【事前対策】

- ① 畜舎内に風が吹きこまないように窓、戸等の損傷箇所は速やかに補修する。
- ② 暴風時は畜舎を密閉し、換気扇を稼働させて換気を行う。
- ③ 畜舎への雨水の侵入を防ぎ、配合飼料・乾草等は濡れて変質しないよう、安全な場所に移動する。
- ④ 停電によって搾乳ラインやバルククーラーが止まることが予想される場合は、緊急時の発電機の確保を検討しておく。

【事後対策】

- ① 畜舎の再点検を行い被害箇所の修理を行う。
- ② 畜舎への浸水があった場合は排水に努め、水が引いた後、速やかに畜舎、家畜、設備器具の水洗、乾燥、消毒を実施する。特に、搾乳機器は故障箇所の点検を行い、消毒等の衛生管理を徹底する。

6 飼料作物

【事前対策】

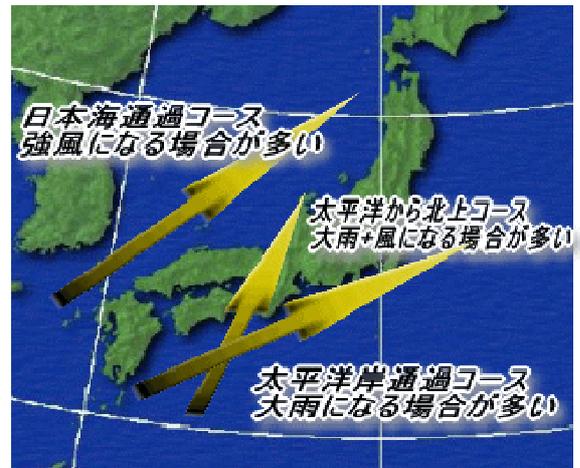
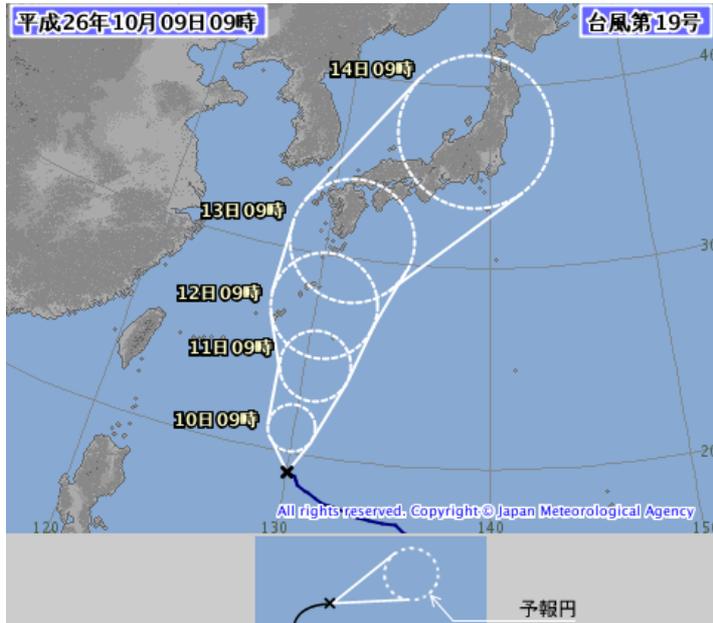
- ① ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールは網をかけるなど強風による破損を防止する。

【事後対策】

- ① 刈取り適期の牧草は、天候をみて早急に刈取りする。倒伏したものは速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ。
- ② ロールベールサイレージのラップやバンカーサイロ等の被覆ビニールに破損箇所があれば、再度ラッピングやテープを貼るなどサイロの気密性の確保に努める。

Ⅲ 気象の概況

台風進路予報



09日09時の実況>	
大きさ	-
強さ	猛烈な
存在地域	フィリピンの東
中心位置	北緯 19度 10分(19.2度) 東経 130度 00分(130.0度)
進行方向、速さ	北西 10km/h(6kt)
中心気圧	900hPa
中心付近の最大風速	60m/s(115kt)
最大瞬間風速	85m/s(165kt)
25m/s以上の暴風域	全域 200km(110NM)
15m/s以上の強風域	北側 500km(270NM) 南側 330km(180NM)

用語説明

平均風速	普通、風速といえば、この10分間平均風速を指します。
風速	10分間平均風速の最大の値で、台風によく使われる「中心付近の最大風速は・・・」がこれに当たります。
最大瞬間風速	風速は絶えず変化しています。ある瞬間の風速を瞬間風速といいます。その最大値を最大瞬間風速といい、通常、同じ時間の最大風速の約1.5～2倍と言われていますが、ときには3倍に及ぶこともあります。
強風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速で15m/s以上25m/s未満の風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に、吹く可能性のある領域。
暴風域	台風や発達した低気圧の周辺で、平均風速が25m/s以上の風が吹いているか、地形の影響などが無い場合に、吹く可能性のある領域。